

1. ストライキ関連情報

①Tai Yang 社のストライキのその後

今年5月、Tai Yang 社の経営者が、社名を変更することにより、社員への勤続ボーナスなどの支払いを意図的に免れようとしたため、労働者たちはストライキを起こした。このストライキは一時4,000人の労働者を巻き込み、2か月以上続き、1日あたり約10,000ドルの損失が発生していたという。なお3つのTai Yang 社工場の内、Ang Snuol 区にある工場は現在も閉鎖されている状態である。

労働者たちは、調停評議会による解決策を心待ちにしていたが、調停評議会とTai Yang 社の経営陣との議論は20分で終わり、解決策は出なかった。労働者の1人、Pho Han 氏は「会社側は、本件については解決策を提示しないだろう。なぜなら、ストライキにより大きな打撃を受け、工場を維持する意志がなくなったように見えるからだ。しかし、評議会との議論の後、会社側は解決に向けて再度検討する事を告げてきた。なぜ彼らの発言が急に変わったのか、私はわかりません」と話している。

社会問題相のIth Sam Heng 氏は、8月中旬にTai Yang 社宛に37人のストライキを実施し解雇された労働者の再雇用を打診していた。しかしその提案が会社側から拒否されたことにより、それ以来膠着状態となっていた。

②2月に発生したバベットでの大規模デモと州知事による狙撃のその後

今年2月に、スバイリエン州バベットのマンハッタン経済特別区域内のKaoway 靴工場にて起こった大規模ストライキが起きた際に、その抗議活動中の女性3人を狙撃した事件の容疑者となったバベット前知事に関して、裁判所職員は、「彼の逮捕が実行されるかどうかまだ定かではない」と話している。

Pich Chhert 地方裁判所長官は、まだ手続きは進行中ではあるものの、検察側より報告書を受け取ったと述べ、公判の日時は未定だが、受け取った報告書の精査に入ると話した。Bandith 前州知事は一度も逮捕に至っておらず、Cambodian Legal Education Centre のMoeun Tola 氏は「はっきりと差別、優遇が本件では見られます」と述べ、被害者の1人、Buot Chenda さん(21歳)は「私達は正義を感じる事はないでしょう。権力を持つものが勝者ですから」と話した。狙撃された3人の被害者は45,000ドルの補償金を求めている。

人権団体は、発砲事件から9か月以上たった今も、Bandith 氏の裁判を執行出来ていないことに関して、裁判所を非難している。4月18日に、Bandith 氏は3人の女性を狙撃した事件で起訴されたが、「空中へ向けて発砲したものがたまたま女性達に当たってしまったのだ」と、裁判所は主張している。3人の中で最も重症だった21歳のBuot Chenda さんは、「裁判所など全く信用していません。この裁判は、容疑者を解放することを目論んでいます。この国では、貧しい人と権力のある人の間に差別が存在します」と話す。

③11/15、靴工場でストライキ発生

Global Footwear 工場で働く数百人もの労働者によるストライキは、昨日ついに10日目に突入した。しかし月収の9ドルアップを含んだ12の要求項目はいまだ達成される見込みはない。Ang Snuol 地区Poeuk にあるGlobal Footwear の自由貿易組合代表Mao Mols さんは、「賃金の改善を求めて起こしたこのストライキは11月15日に始まったもので、工場と州の労働事務所の両方に、事前に知らせてあり、合法的なものである。現在の基本賃金は61ドルですが、私たちは近隣の工場と同じく70ドルを望んでいます」とMol さんは話す。彼はまた「労働者の要求に関して、工場側が契約を破らないことと、交渉の仲裁が成り立たなかった場合も訴訟を起こさないことなどを求めている」、と付け加えた。

会社側の代表は、ストライキ参加者の数を300人程度と見積もっているが、Mol さんは1000人以上が参加していると話している。州の労働争議課の責任者であるSok Kheng さんは、「州の労務省の交渉はうまくいっておらず、このストライキに関してはこれから仲裁審議会に解決を委託する予定だ。また会社側はストライキを指導するリーダー達に対して法的措置を取らざるを得ないだろう」、と話している。

2. Kampot 州で、企業による農村の焼き払いが発生

カンボジア商工会議所の役員が所有しているFirst Bio-Tech Agricultural (Cambodia) Co, Ltd は、Kampot 州 Chhouk 区 Chi Bak 村の80棟を不法に破壊したとして、訴えを起こされた。

Chi Bak 村出身の Chan Pheng さんは、「私の家と農作物は焼き尽くされてしまいました。それに対して、何の償いもありません。一体、私たちはどこに住めばよいのでしょうか。我々を助けて下さい」と、プノンペン・ポスト紙の取材に答えた。しかし Kampot 州 Heng Vantha 副知事は、「Chi Bak 村に住む70%の人は、最近住み始めたのであり、彼らの家は不法に建てられたものである。よって彼らの家だけが破壊されたのである。彼らが望めば法に従った形で土地の準備をすることも考える」と、話している。

First Bio-Tech Agricultural (Cambodia) 社は、2005年に1万ヘクタールのランド コンセッションを取得し、該当地区でコーンの大規模プランテーションの準備を行っていた。プノンペン・ポスト紙が入手した資料によると、ランド コンセッションは今年になりキャンセルされているように見受けられる。First Bio-Tech Agricultural (Cambodia) 社側は不法な破壊は行っておらず、ランド コンセッションも有効だと述べている。

3. 労働者の失神事件関連情報

①失神事件の原因は不明？

海外有名ブランドの製品も製造している Kampong Chhnang 州 M&V 工場では、5年間毎日失神者が出ている事が、カンボジア法律教育センターの調査により明らかになった。経営側が新しい扇風機を設置したのは数週間前だが、それ以前は常に3人から4人の縫製労働者が気絶したり倒れこんだりしていたようだ。それを裏付ける為、M&V 工場において、各リーダーや労働組合職員が法律教育センターのインタビューを受けたが同じ返答が帰ってきた。「数年にわたって毎日1人か2人の労働者が失神している」と。

法律教育センター労働プログラムの責任者 Moeun Tola 氏によると、「1人が失神した後にそれを見た他の労働者が誘発されて失神しないようにと、工場は失神した人は迅速に外へ連れ出すようにしているが、個々の失神は変わりなく続いている」と、労働者達は彼に話したという。ある労働者は、彼が働き始めて以来5年間ずっとこの状況は続いているとも発言している。原因については、「根本的な栄養不足や換気の悪さ、悪臭や超過労働が原因である」と労働者側は話しており、週7日毎日残業している者もいると話す。

プノンペン M&V 工場の理事長 Yin Nak 氏は、Kampong Chhnang 州の工場で、労働者が失神者を毎日目撃しているという情報を否定しており、「この事件の原因は労働者たち自身である。工場環境が原因で失神者が出るのではなく、これは労働者たちの感覚によるものです。彼らは毎年8月が来ると恐れます。なぜなら毎年この月、毎年労働者は倒れてしまうからです」と彼は話し、また「労働者の食事内容が貧相であることも問題の1つである」とした。

H&M コミュニケーション・広報担当の Anna Eriksson さんは、「会社は M&V 工場とともに改善計画を作っており、その計画の中身としては、工場への苦情を受け付けるシステムの導入や環境安全衛生委員会の設立、温度の管理やその他換気の改善など、様々なものが含まれている。この問題は縫製産業で広がりつつあり、解決すべき問題です。カンボジアの多くの縫製工場で似たような出来事が起こっていますから」と、メールでポスト紙に答えた。

食生活に関し、ある労働者は「1日に1.25ドルしか食事に使えないのでエネルギーが完全に足りていないということ分かっています。しかし他に選択肢がないのです」と話している。また、労働者たちは工場への食べ物の持ち込みや、2時間の休憩時間以外での間食などを禁じられており、労働者たちが長時間に及ぶ労働を完全に終えるまで空腹で過ごさなくていけない事も要因だ」との声も聞かれる。

そのような状況の中、今年初めに書かれた国際労働機関カンボジア工場改善プログラムの未発表の討議資料には、工場名は匿名ではあるが、「縫製工場の多くがプログラムのアドバイスを無視していることがわかった」と書かれている。工場が労働基準に従おうとするのは、世論に敏感なバイヤーからの圧力であったり、工場改善プログラムにより定められたコンプライアンスレベルの社会への公表が理由であったりする。討議資料によると、労働基準を満たしていない工場の評価については公表にすることを工場改善プログラムは提案している。また長年にわたって基準を守っていない工場に対し、労務相などに要求を出して援助をもらうよう提案している。

国際労働アメリカセンターの地域部長 Dave Welsh 氏は、「縫製産業の透明性に関して、ここ数年間でますます悪化しているが、これは工場改善プログラムの失敗によるものではない」と話し、数年にわたって工場改善プログラムが行なっ



てきた働きに関して高い賞賛をしている。しかし、「工場改善プログラムがブランド会社に内密の報告を行い、アクションを取るかどうかは全てブランド側に一任する、といった仕組みのせいで台無しになっている」、とも話した。工場改善プログラムの技術アドバイザーである Jill Tucker 氏は、「プログラムに強制力を伴わせるため、労務相と話し合いの最中である」と話した。

②11/15、Vattanac 工業団地内の縫製工場にて200人の失神者発生

11/15、プノンペン近郊に位置する Vattanac 第2工業団地内の五つの縫製工場で、約200人の失神者が発生した。失神者の1人である Papillion Textile (Cambodia) に勤める Nou Srey Pich(28)は、その時の状況を「労働者が床に卒倒したり、(おそらく嘔吐の為に)出口に駆け足で向かった者もいたが、上司はそれを阻止した。私自身も嫌な匂いと息苦しさで苛まれ、そして嘔吐し、気を失った」と語った。また、他の工場でも、多数の嘔吐者として失神者が発生したが、はっきりとした原因については未だに分かっていない。警察の報告によると、11/15、Vattanac 第2工業団地にある4つの工場において、計50人以上の労働者が失神するという事件が起こった。しかし労働組合の代表者は失神者の数は200人以上であると主張している。

カンボジア・ソビエト友好病院の医者は「失神者は異臭や他の労働者が卒倒する光景を見て、失神している。これは重度の健康の問題ではないと考えられます」と話した。また GMAC の Ken Loo 氏は、「本件に関して詳細は分からない」と、述べている。

Dangkor 地区 Krang Pongro の警察署長である Ouk Ly 氏は、「11/15に数百人の失神者を出した5つの工場のうち4つでは、11/16の朝7時に、再度失神者が出ました」と話す。「」と彼は話す。また「これらの失神者の健康状態はそこまで深刻ではなく、人が倒れたり、嘔吐するのを見て、連鎖的に起こった意味合いも強い」と、匿名の関係者は話した。自由貿易組合職員の Oum Lina さんは、「この2日間で出た失神者の数は推定600人ほどだ」と述べている。この問題になっている工場は、Newpex 社とカンボジア Papillion Textile 社、そして Moha 縫製工場であり、お互いが連なっている。

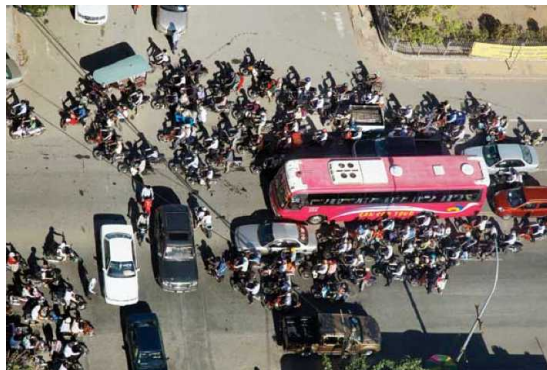
4. その他の情報

①11/02、マルハン・ジャパン銀行がマイクロファイナンス事業に参入

マルハン・ジャパン銀行は、カンボジア中央銀行認可のマイクロファイナンス機関である Sathapana 社の株式を 95.1% 取得し、商用銀行として初めてのマイクロファイナンス部門への直接金融サービスへ参入する。Sathapana 社はカンボジアのマイクロファイナンスの草分け的存在であり、貧困部、過疎地へのマイクロファイナンス・サービスの提供を行ってきた。株式取得にあたり、大西ゼネラルマネージャーは、「マルハンの短期から中期のゴールは、純粋に利他的であり、カンボジアの発展を助ける事なのです。しかし我々の哲学は、未来で利益を得るためには、今日の投資が必要であるというものです。なので、長期的なゴールとなると、利益を得る事となります」と話している。またメディア・リリースによると、マルハンと Sathapana 社は双方とも独立した機関として存在していくという。

②11/15、ASEAN 会議の影響で、プノンペン市内は大渋滞を懸念

バイク、車が我先にと信号待ちでポジション取り合戦をするのは、プノンペンの日常的な光景である。しかし ASEAN 中は、主要道路が封鎖され、合計10,000人の警察官が動員され、交通整備が行われる事になる。また主要道路の行商、店は一時閉店するようにアナウンスされている。ある店のオーナーは「収入的に大きな打撃を受けてしまうが、私たちに選択肢はありません」と話している。また政府関係者からは「我々は事前に道路の封鎖等を宣言しているが、住民にとっては渋滞等、大きな影響がでるだろうが協力してくれるだろう」と語った。



③11/22、ASEAN 会議でオバマ大統領が残したもの

オバマ大統領がやってきた、そして何も言わずに去って行った。バラク・オバマはカンボジアに最初に降り立ったアメリカの大統領となった。カンボジアの人民は、はやる想いで彼の到着を待っていた。しかし、この歴史的瞬間に“ナニか”が欠けていた。オバマ大統領はタイではプミボン国王に逢い、インラック首相にも逢って会食をした。ミャンマーで

は数千の国民とも顔をあわせ、そして、民主化指導者アウンサン・スー・チー氏と彼女のヴィラの湖のほとりで会話を交わした。しかしながら、カンボジアではどうだっただろうか。

小さなファンファーレと共に、閑散とした道を車でのパレード。そこには高潔な護衛も、チャーミングな女性の出迎えもなかった。そしてアンコールワットへの訪問もなかった。今回のカンボジアへの来訪は、あくまで ASEAN への参加であって、カンボジアへの来訪が目的ではなかったのだ。会談自体は、重要事項の懇話な会談となったが、歴史的な背景は欠けた感はない。いつかオバマ大統領が家族とカンボジアへ再度訪れ、アンコールワットを参拝する事を願っている。タイやミャンマーのように、カンボジアも情緒溢れ、感傷的な風景を持つ国である。そのような光景をフンセン首相と見てくれば、と思う。

④11/19、カンボジア経済は健全に向上中

経済開発協力機構(OECD)が新しく出したレポートは、「カンボジアにおいてこれからの5年間で GDP が6.9%の伸びが見えるだろう」と指摘しており、「これはラオスを除けば ASEAN の中で最も大幅な成長率である。しかし、労働人口のうちの多くが技術訓練を受けていない未熟な労働者であり、また非効率な教育システムが経済成長の伸びをとどめる足枷になっている。したがってカンボジアは生産性とインフラに関する問題に早急に取り組む必要がある」と記している。

OECD の事務局次長である玉木林太郎氏は「より多くの構造改革が必要とされています。我々は特に3つの問題に注目しており、ひとつは農業、次に教育、そして最後に銀行部門、特に中央銀行の引受能力です」とポスト誌に話した。加えて、「国が US ドルに依存しているということは、もし為替レートが下落した場合に問題が発生する」と OECD は考えている。さらに OECD は経済成長継続のための手段を具体的にいくつか挙げている。例えば、電気や注水、輸送や新しい技術へのアクセスなどのインフラ問題に取り組むことだ。玉木氏は、農業が繁栄のためのキーであると考え、「カンボジアは精白米の輸出量を増やすことに焦点を当てるべきだと、我々は提案しています。脱穀前の米のマーケットはとても複雑で政治的な面もあるので、精白米の方がカンボジアにとってはより期待できるものになるでしょう」と提案している。

⑤11/21、国境での賄賂問題

旅行者や労働者が、カンボジア・タイ間の国境(ポイペト)警察に対して、「初めての渡航者に20ドル、定期的に往来する人々には3ドルの賄賂を要求している」として、非難の声を上げている。

Sao Mony(19歳)は、「6 人のグループでポイペトの通行検問所を超える際に、600バーツ(19. 50ドル)を支払うように国境警察に要求された」と話す。また彼が複数回行き来している旅行者から聞いた話によると、彼らは100バーツ(3. 25ドル)要求された、という。Rin Bona(25歳)は、タイでの就労許可書を持つ10人のグループは、検問所を通る際、常習的な行き来を理由に400バーツ(13ドル)要求されたと話す。ある商人によると、このような国境の行き来に際しての賄賂は、日常的に横行していると言う。賄賂は段階に応じて100バーツから600バーツ程度であり、非公式のパスポートスタンプ手数料だと言う。

国境のチェックポイントでの主担当からはコメントは取れなかったが、ポイペト州警察の Kheng Sum チーフからは「旅行者が出入国手続きを、列に並ばず、他の旅行者をスキップして早く処理してもらおうといった対応はもう存在していません」と話している。

⑥カンボジアへの観光客が増加

2012年の1月から10月のカンボジアへの観光客数は2, 858, 500人となり、昨年の同時期(2, 327, 980人)よりも24%上昇した、と観光省が統計を発表した。観光客の75. 4%はアジア太平洋地域からであり、ASEAN 諸国からは36. 22%の上昇を確認した。EU 諸国からは11. 3%の上昇となった。観光省の役人は、今年の終わりまでに合計で330万～340万人の観光客になるだろう、と見込んでいる。

⑦ミャンマー国際航空が12月よりヤンゴン-カンボジア間で就航

12月上旬よりミャンマー国際航空が、ヤンゴン～カンボジア(プノンペン、シェムリアップ)間の就航を再開する。ヤンゴン～プノンペン間は毎週水曜日、土曜日。ヤンゴン～シェムリアップ間は毎週月曜日、金曜日の就航が決定している。観光省の Kong Sophearack 氏は「我々は似た文化を持っており、似た人種である。この直行便が ASEAN のメンバーとしても観光、経済ともに切磋琢磨し、発展に繋がると考えている」と述べている。